

【特集】大江健三郎：〈資料〉大江健三郎 関連文献目録（二〇一三年九月～二〇二四年 四月）

(出版者 / Publisher)

現代文藝研究会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

現代文藝研究

(巻 / Volume)

3

(開始ページ / Start Page)

74

(終了ページ / End Page)

103

(発行年 / Year)

2024-04-30

大江健三郎関連文献目録（二〇一三年九月～二〇二四年四月）

凡例

※『晩年様式集』^{イ・レイト・スタイル}連載終了以降から本誌発行までに日本語で書かれた大江健三郎に関連する書籍（一部収録、共編著を含む）・雑誌特集・論文を掲載した。論文は執筆者（講演者）、題名、掲載誌、巻号、発行元の順に記載した。

※原則として、新聞掲載の追悼記事、大江本人の文章、外国語による論考、学位論文の類は外した。

※大江健三郎の著作の解説および雑誌特集に所収されたものの以外の書評については割愛した。

※書誌情報に関して、『新潮』『文藝春秋』『群像』『文藝春秋』『図書』および日本文学協会・日本近代文学会・昭和文学会・社会文学会発行の学会誌については、発行元を省略した。

○単行本

小谷野敦『江藤淳と大江健三郎 戦後日本の政治と文学』筑摩書房、二〇一五年（のち、ちくま文庫、二〇一八年）
司修『Oe 60年代の青春』白水社、二〇一五年
小野正嗣『100分de名著 大江健三郎『燃えあがる緑の木』』NHK出版、二〇一九年
森昭夫（編著）『大江健三郎書誌稿第1部（著書目録）2019年増補版』、同『第2部（初出目録）』『第3部（文献目録）』能登印刷、二〇一九年
山本昭宏『大江健三郎とその時代…「戦後」に選ばれた小説家』人文書院、二〇一九年
尾崎真理子『大江健三郎全小説全解説』講談社、二〇二〇年
工藤庸子『大江健三郎と「晩年の仕事」』^{レイト・ワーク}講談社、二〇二二年
野崎歓『無垢の歌 大江健三郎と子供たちの物語』生きのびるブックス、二〇二二年

尾崎真理子『大江健三郎の「義」』講談社、二〇二三年
 菊間晴子『犠牲の森で…大江健三郎の死生観』東京大学出版会、二〇二三年

奥憲介『「新しい時代」の文学論…夏目漱石、大江健三郎、そして3. 11後へ』NHK出版、二〇二三年

東京大学文学部広報委員会（編著）『大江健三郎を語る視座』東京大学文学部、二〇二四年

井上隆史『大江健三郎論…怪物作家の「本当ノ事」』光文社新書、二〇二四年

司修『さようなら大江健三郎こんにちは』鳥影社、二〇二四年

○単行本（単著）に一部収録

二〇一三年

フィリップ・フォレスト「大江健三郎の小説をめぐる最初の覚え書」（フィリップ・フォレスト（著）、澤田直、小黒昌文（訳）『夢、ゆきかひて』白水社）
 石原千秋「『僕ら』とは誰か…大江健三郎『芽むしり仔撃ち』（『教養として読む現代文学』朝日新聞出版）

矢崎泰久「大江健三郎の処世術」（『人生は喜劇だ…知られざる作家の素顔』飛鳥新社）

井崎正敏「軍国少年の夢…大江健三郎の「戦争」「大日本帝国VS「村Ⅱ国家Ⅱ小宇宙」…大江健三郎の「国家」（『戦争』と〈国家〉の語りかた…戦後思想はどこで間違えたのか』言視社）

二〇一四年

三浦玲一「グローバル化の文化と文学…村上春樹、ティム・オブライエン、レイモンド・カーヴァー（Ⅲ純文学と内外の分別…大江健三郎の村上春樹評）」（『村上春樹とポストモダン・ジャパン…グローバル化の文化と文学』彩流社）
 太田哲男「大江健三郎初期作品における「自然」（『断念』の系譜…近代日本文学への一視角』影書房）

平野啓一郎「天才の仕事…大江健三郎「不意の啞」（『生命力』の行方…変わりゆく世界と分人主義』講談社）

河中郁男「戦後という枠組み…大江健三郎と吉本隆明」「カントあるいはハムレット／オレステス…大江健三郎とその時代」「不在なるものをめぐって…大江文学との闘い」（『中上健次論（第1巻）…死者の声から、声なき死者へ』鳥影社）

二〇一五年

二宮正之「ウイリアム・ブレイクと大江健三郎の「美しい月」」(『文学の弁明…フランスと日本における思索の現場から』岩波書店)

音谷健郎「戦後思想をどう持続したか…大江健三郎『飼育』」「人間神の「時代精神」に抗う…大江健三郎『水死』」(『解放の文学…100冊のこだま』解放出版社)

小熊英二「戦後民主主義」とナショナリズム…初期の大江健三郎を事例として」(『アウトテイクス…小熊英二論文集』慶應義塾大学出版会)

奥平康弘「大江健三郎と日本国憲法」(『「憲法物語」を紡ぎ続けて』かもがわ出版)

莫言「大江健三郎氏が私たちに与える啓示」(莫言(著)、林敏潔(編)、藤井省三・林敏潔(訳)『莫言の思想と文学…世界と語る講演集』東方書店)

河中郁男「三人目の天皇…『万延元年のフットボール』論」(『中上健次論〈第2巻〉…父の名の否、あるいは資本の到来』鳥影社)

二〇一六年

鈴木和成「生首考…三島VS大江健三郎、松浦寿輝」(『テロの文学史』太田出版)

石川義正「大江健三郎の「塔」」「大江健三郎の「総力戦」」(『錯乱の日本文学…建築／小説をめざして』航思社)

小野光子「大江健三郎との出会い」(『武満徹…ある作曲家の肖像』音楽之友社)

坂口周「一九六三年の分脈…大江健三郎と川端康成」(『意志薄弱の文学史…日本現代文学の起源』慶應義塾大学出版会)

二〇一七年

松山慎介「大江健三郎・一九六〇年前後」(『「現在」に挑む文学…村上春樹・大江健三郎・井上光晴』響文社)

マコト・フジムラ「大江健三郎の「人間の羊」」(マコト・フジムラ(著)、篠儀直子(訳)『沈黙と美…遠藤周作・トラウマ・踏絵文化』晶文社)

宮原昭夫「早く来すぎた青年…大江健三郎小論」(『宮原昭夫評論集…自意識劇の変貌』言海書房)

加藤典洋「占領下の文学…第三の新人、曾野綾子、大江健三郎、目取真俊」(『大江健三郎の晩年』『水死』のほうへ…大江健三郎と沖縄』(『敗者の想像力』集英社新書)

村上克尚「大江健三郎…動物を殺害する人間」(『奇妙な仕事…動物とファシズム』「飼育」…言葉を奪われた動物」「セヴンティーン」…ファシズムに抵抗する語り」(『動

物との共生へ（『万延元年のフットボール』…傍らに寄り添う動物）」（『動物の声、他者の声…日本戦後文学の倫理』新曜社）

ジョン・ネイスン「大江健三郎」（ジョン・ネイスン（著）、前沢浩子（訳）『ニッポン放浪記…ジョン・ネイスン回想録』岩波書店）

二〇一八年

江口真規「大江健三郎「人間の羊」…『羊たち』の沈黙」（『日本近現代文学における羊の表象…漱石から春樹まで』彩流社）
糸井通浩「谷間の村の想像力…大江健三郎と故郷」（『谷間の想像力』清文堂出版）

伊藤氏貴「美しくあまいな日本…川端康成と大江健三郎の〈日本〉」（『美の日本…もののあはれ』から「かわいい」まで』明治大学出版会）

秋草俊一郎「日本文学のなかのナボコフ（大江健三郎…晩年の傾倒／『美しいアナベル・リイ』…『ロリータ』を書きかえる）」（『アメリカのナボコフ…塗りかえられた自画像』二〇一八年）

逆井聡人「物語のなかの闇市（3…大江健三郎「万延元年のフットボール）」（『焼跡』の戦後空間論』青弓社）

藤井省三「中国的宴会の極北…莫言の『酒国』（大江健三郎のノーベル文学賞記念講演／愛飲家大江健三郎は語る）」（『魯迅と紹興酒…お酒で読み解く現代中国文化史』東方書店）

菅孝行「禁じられたエロスと戦後日本の宿命（大江健三郎出現の予兆／大江健三郎と三島由紀夫）」（『三島由紀夫と天皇』平凡社新書）

二〇一九年

工藤庸子「大江健三郎と女性（一）（二）（三）」（『女たちの声』羽鳥書店）

李承俊「疎開派がつまずく…戦後派の大江健三郎に異議あり」（『疎開体験の戦後文化史…帰ラレマセン、勝ツマデハ』青弓社）

ジョ・ヨンイル「語りを越えて…大江健三郎をめぐる」（『ジョ・ヨンイル（著）、高井修（訳）『柄谷行人と韓国文学』インスクリプト）

田中健滋「「対人ストレス耐性三類型論」の応用…日本近現代文学（3…対人ストレス耐性大だろ大江健三郎）」（『価値生理学序論…坂口安吾、太宰治、亀井勝一郎を読み解くことから』青弓社）

井口時男「大江健三郎…ユーモアという思想」(『大洪水の後で…現代文学三十年』深夜叢書社)

佐々木敦「大江健三郎VS村上春樹」(『私は小説である』幻戯書房)

二〇二〇年

沼野充義「世界との本当の出会いに向けて…大江健三郎と『世界文学』」(『世界文学論(徹夜の塊3)』作品社)

都甲幸治「大江健三郎「死者の奢り」…死者たちの声を聞く」(『街小説』読みくらべ)立東舎)

横田喬「今、日本は戦後最大の危機を迎えている」…大江健三郎さん」(『反骨のDNA』時代を映す人物記』同時代社)

二〇二一年

呉叡人「最も高貴な痛苦…大江健三郎『ヒロシマ・ノート』『沖縄ノート』における日本への郷愁」(呉叡人(著)・駒込武(訳)『台湾、あるいは孤立無援の島の思想…民主主義とナショナリズムのディレンマを越えて』みすず書房)

島征一郎「大江健三郎と沖縄」(『琉球とヤマト…歴史の視座を求めて』耕文社)

下山嬢子「大江健三郎(一、『罪のゆるし』のあお草…『魂の問題』について／二、『燃えあがる緑の木』の〈教会〉…

「信仰を持たないもの」の祈り)」(『近代文学に見る〈靈性〉』鼎書房)

二〇二二年

菊池良「大江健三郎と戦後民主主義」(『タイム・スリップ芥川賞…文学って、なんのため?』と思う人のための日本文学入門』ダイヤモンド社)

酒井信「愛媛県松山市／大江健三郎『取り替え子 チェンジリング』」(『現代文学風土記』西日本新聞社)

高山花子「祈るように鳥たちの声を聞く…大江健三郎(一、鳥に由縁ある者たち…『個人的な体験』／二、クイナのエピソードと捨子…『静かな生活』／三、驚から鷹の形象へ…『頭のいい雨の木』／四、鳥のテーマの変奏…『燃えあがる緑の木』」(『鳥の歌、テキストの森』春秋社)

崔在喆「大江健三郎文学の韓国人表象」(『日本近現代知識人・文学者の韓国認識』勉誠社)

青木亮人「内子町「チョウソカベ」の森と三桎の花…大江健三郎、昭太郎」(『愛媛文学の面影 南予編』創風社出版)

二〇二三年

中谷いずみ「歴史の所在／動員されるホモエロティシズム…大江健三郎『われらの時代』にみる戦争の痕跡」(『時間

に抗う物語…文学・記憶・フェミニズム』青弓社)

田村美由紀「再演される言葉…大江健三郎『みずから我が涙をぬぐいたまう日』『水死』」(『口述筆記する文学…書くことの代行とジェンダー』名古屋大学出版会)

横道誠「大江健三郎の『ファン』としての村上春樹」(『村上春樹研究…サンプリング、翻訳、アダプテーション、批評、研究の世界文学』文学通信)

大島丈志「大江健三郎『革命女性』における「農民芸術概論綱要」の再創造」(『現代文化のなかの〈宮沢賢治〉』新典社)
長谷川宏「時代に抗する種々の表現」(『日本精神史近代篇下』講談社)

金ヨンロン「捕虜問題とレイシズム…遠藤周作『海と毒薬』と大江健三郎『飼育』」(『文学が裁く戦争…東京裁判から現代へ』岩波新書)

新船海三郎「大江健三郎と天皇〈制〉、また「戦後民主主義」…「セヴンティーン」から「晩年様式集」まで」「平和」と「勝利」と「民主」という思想…大江健三郎の二つのノートから」(『翻弄されるいのちと文学…震災の後、コロナの渦中、「戦争」前に』あけび書房)

安藤礼二「大江健三郎の闘争」(『死者たちへの捧げもの』

青土社)

二〇二四年

山本浩貴「新たな距離…大江健三郎における制作と思考」「絶望とモデル…大江健三郎におけるアトリエ」(『新たな距離…言語表現を酷使する(ための)レイアウト』フィルムアート社)

神山睦美「代わりに死んでくれる存在…大江健三郎『さようなら、私の本よ!』」(『奴隷の叙情』澤標)

○単行本(共著)収録論文

二〇一三年

洪珍熙「大江健三郎とフクシマ」(石井正己(編)『震災と民話…未来へ語り継ぐために』三弥井書店)

二〇一四年

アントナン・ベシュレール「大江健三郎、あるいは犠牲の演劇」(宮信明・大久保遼(編)『演劇と演劇性…日仏共同国際シンポジウム…早稲田大学演劇映像学連携研究拠点主催シンポジウム(早稲田大学演劇映像学連携研究拠点成果

報告集)』文部科学省「特色ある共同拠点の整備の推進事業」早稲田大学演劇博物館演劇映像学連携研究拠点)

芳賀浩一「自然への欲望と近代…大江健三郎による『同時代ゲーム』から『M/Tと森のフシギの物語』への書き換えと自然の位相の変化」(小谷一明・巴山岳人・結城正美・豊里真弓・喜納育江(編)『文学から環境を考える…エコクリティシズムガイドブック』勉誠出版)

二〇一六年

奥泉光・野崎歓・町田康「大江健三郎を読む…『芽むしり仔撃ち』」(奥泉光・群像編集部(編)『戦後文学を読む』講談社文芸文庫)

高橋由貴「大江健三郎の映画観と小説…『臆たしアナベル・リイ 総毛立ちつ身まかりつ』論」(中村三春(編)『映画と文学 交響する想像力』森話社)

二〇一七年

解放「阿部公房と大江健三郎の1950年代から60年代の作品における比較研究」(第11回国際日本語教育・日本研究シンポジウム大会論文集編集委員会(編)『日本語教育と日本研究におけるイノベーション及び社会的インパクト(国際日本語教育・日本研究シンポジウム大会論文集…

第11回)』香港日本語教育研究会)

小森陽一「死者を仲立ちとした応答…3・11後の林京子と大江健三郎」(東北学院大学地域共生推進機構(編)『震災と文学…講義録…東北学院大学地域共生推進機構連続講座』荒蝦夷)

二〇一九年

中谷いずみ「歴史の所在／動員されるホモエロティシズム…大江健三郎「われらの時代」にみる戦争の痕跡」(坪井秀人(編)『戦後日本を読みかえる3…高度経済成長の時代』臨川書店)

藤平育子「森の谷間のヨクナパトーフア…フォークナーと大江健三郎」(諏訪部浩一、日本ウィリアム・フォークナー協会(編)『フォークナーと日本文学』松柏社)

光石亜由美「大江健三郎『セヴンティーン』と「トルコ風呂」…〈政治〉と〈メディア〉と〈性風俗〉の時代」(坪井秀人(編著)『戦後日本文化再考』三人社)

二〇二〇年

大島丈志「大江健三郎と北京…1960年の中国旅行と「下降生活者」」(王書瑋(編)『日本近代知識人が見た北京』三恵社)

村上克尚「大江健三郎」(紅野謙介・内藤千珠子・成田龍一(編)『戦後文学』の現在形』平凡社)

二〇二二年

青山加奈「恢復としての文学…大江健三郎とマーガレット・ドラブルの小説における「rejoice」をめぐる」(江藤秀一(編)『文学作品に学ぶ英語の読み方・味わい方…英語読みのプロが語る』開拓社)

石川義正「『便所』をめぐる闘争…大江健三郎『河馬に噛まれる』を読む」(鈴木創士(編)『連合赤軍…革命のおわり革命のはじまり』月曜社)

茂木健一郎「『沖縄ノート』大江健三郎著」(東アジア共同体研究所琉球・沖縄センター(編)『復帰50年沖縄を読む…沖縄世はどこへ』ボーダーインク)

二〇二三年

高橋由貴「『ピカドン』と大江健三郎『ヒロシマ・ノート』」(原爆の図丸木美術館(編)『『ピカドン』とその時代』琥珀書房)

二〇二四年

菊間晴子「共苦による連帯とその失敗…大江健三郎『泳ぐ男』における性差と動物表象の関係を手がかりに」(村井

まや子、熊谷謙介(編著)『動物×ジェンダー…マルチスピーシーズ物語の森へ』青弓社)

○雑誌特集

『早稲田文学(第十次)』六号(二〇二三年九月)(特集…シリーズ【日本『現代』文学の、標的Ⅱ始まり】3 オオエとハルキ、ふたたび)

阿部公彦「大江健三郎と英詩…日本語の未開領域をめぐる」

榎本正樹「メディア・イメージとしての大江健三郎」

千野帽子「煽情と楽屋落ちと叛乱と…私が大江健三郎を読むとき」

朝吹真理子「未来を愛する意志」

「大江健三郎(ほぼ)全小説解題」

『群像』二〇一三年一二月号(特集…大江健三郎

『晩年様式集』を讀む^{イン・サイト・スタイル}

三浦雅士・いとうせいこう・小野正嗣「合評」

大澤聡「未定稿の補遺」

大澤信亮「激震の亀裂」

高橋源一郎「小説なのやから！」

武田将明「名付けえぬものたちへ」

野崎歓「祈念へ、無垢へ」

福永信「この本の楽しさ」

松永美穂「くりかえし追想される死者たち」

『群像』二〇一九年一〇月号（特集：大江健三郎の

〈現在性〉Ⅰ

安藤礼二「純粹天皇の胎水」

宇野重規「祈り、テキスト、習慣：大江健三郎と現代日本の精神性」

尾崎真理子「予言者としての大江：『全小説』解説を書き終えて」

『群像』二〇一九年一二月号（特集：大江健三郎の

〈現在性〉Ⅱ

工藤庸子「ドン・キホーテからロリータへ：大江健三郎と
『晩年の仕事』」

高原到「テロリストが、生まれる：『セヴンティーン』『政治少年死す』試論」

成田龍一「方法としての『書き直し』・序説：いま、大江健三郎を読むこと」

『文學界』二〇二三年五月号（追悼・大江健三郎）

蓮實重彦「ある寒い季節に、あなたは戸外で遙か遠くの何かをじっと見すえておられた」

多和田葉子「個人的な思い出」

町田康「狂熱と鬱屈」

中村文則「再読する（リリード）、ということ」

島田雅彦・朝吹真理子（対談）「理性と凶暴さと」

松浦寿輝「誠実と猛烈」

安藤礼二「大江さんからの最後の手紙」

阿部和重「Across The Universe：大江健三郎追悼」

長嶋有「もう、大江さん！」

星野智幸「大江健三郎という権威」を批判する大江さん」

横尾忠則「散歩中の会話」

『群像』二〇二三年五月号（追悼・大江健三郎）

朝吹真理子「すれ違っていた」

阿部和重「(I Can't Get No) Satisfaction : 大江健三郎追悼」

いとうせいこう「私的大江健三郎」

尾崎真理子「全うされた小説家の人生」

小野正嗣「大江さんに与えられたこと」

柄谷行人「大江健三郎と私」

工藤庸子「美しい怪物 大江健三郎」

黒井千次「大江健三郎氏との触れ合い」

司修「1970『叫び声』」

中村文則「恩人として」

沼野充義「光り輝く精神の果物屋、あるいは神なきドスト

エフスキー」

蓮實重彦「大江健三郎の周辺では、いま、現実の女性もフ

イクシヨンの女性も、自分の言葉を滑らかに語り始めている」

平野啓一郎「大江以後も書き続けるということ」

町田康「魂の行き処」

三浦雅士「起点としての『万延元年のフットボール』」

奥山紗英「辞書を残す人」(追悼詩)

『新潮』二〇一三年五月号【追悼】永遠の大江健三郎文学

筒井康隆「お詫びその他。」

四方田犬彦「Numquam est」

野田秀樹「作家はカタルシス」

川上弘美「重層」

尾崎真理子「時代に祝福された作家だった」

多和田葉子「三度の出会い」

島田雅彦「戦後民主主義のレジェンドかつパンク」

町田康「魂のこと」

岡田利規「大江さんの若さ」

平野啓一郎「戦後民主主義と文学」

中村文則「存在そのものが、文学のような人」

佐藤厚志「大江さんの笑いを引き継いで」

『ユリイカ』二〇一三年七月臨時増刊号 総特集Ⅱ大江健三郎1935-2023』

〈回想〉

柴田翔「若き大江健三郎氏の〈五月祭賞〉受賞作品を読んだ日そしてその後…〈追悼のために〉」

原広司「死者とともに生きよ…「こゝんな切れっぱし」と generatioの餅が立ちのぼる響き」

フィリップ・フォレスト（澤田直…訳）「大江健三郎と私」
〈2023/03/03〉

司修「1970《シンガポールの水泳》」

市川沙央「破壊と共生の王」

〈いま、大江健三郎をめぐる〉

菊間晴子「大江健三郎」と「死」

岩川ありさ「大江健三郎の「年」と「手紙」…「美しいアナ

ベル・リイ」を手がかりにして」

高山花子「話すように書く…耳の記憶めがけて」

片岡真伊「鳥^{バード}とBid^{A Personal Matter}…英語圏を旅する『個人的な体験』」

村上克尚「他者と重なり合う…大江健三郎における想像力
論の起源」

〈対談〉

工藤庸子・尾崎真理子「〈紙〉と〈声〉」

〈黄昏を歩む〉

山登義明「ニューヨークの『雨の木』」

鳥居万由実「LEDライトではない」

〈谷間の村から〉

大塚英志「構造と固有信仰…大江健三郎における柳田國男
の「実装」問題」

山田広昭「不順^{まつろわぬくにつかみ}国神、あるいはセイタカアワダチソウと
葛の間を歩む者…「絶対小説家」大江健三郎を悼む」

里見龍樹「〈同時代の民族誌〉…文化人類学者が読む大江健
三郎」

高村峰生「『キルプの軍団』における引用の時空間」

長濱一真「ビョウ シン キョウ カン…大江健三郎『水
死』論」

〈破局と反逆〉

結秀実「桃太郎の父…大江健三郎の「大逆」」

梶尾文武「右翼的情動…大江健三郎の一九六〇年前後」

王寺賢太「詩とテロルのあいだ…大江健三郎「セヴンティ
ーン」と「政治少年死す」についての覚え書き」

雑賀恵子「菊の花弁は増殖し…」

栗田英彦「「宙返り」する戦後民主主義…本土決戦と一九
六八年」

〈「戦後民主主義者」であるということ〉

成田龍一「大江健三郎の「戦後」をめぐる、いくつかのこと」

柿木伸之「立ちすくむ人の人間への問い…大江健三郎の『ヒ
ロシマ・ノート』を読み続けるために」

村上陽子「日本人」の変容の可能性に向けて…大江健三

郎『沖縄ノート』を読む」

岡本拓司「核と想像力…大江健三郎の場合」

石川義正「引用と救済…『水死』における「プラトニズムの転倒」と自死」

〈詩〉

藤井貞和「小説の悲しみ」

〈「本当の事」との対話〉

青木淳悟「『革命女性』を読んで偲ぶ」
レヴオリュシヨナリ・ウーマン

羽鳥嘉郎「大江健三郎と戯曲の体裁…『革命女性』から」
レヴオリュシヨナリ・ウーマン

間宮緑「記憶の共同体」

〈イーヨーと吾良の声〉

丹生谷貴志「…これが私たちの生活ですからね！」

城殿智行「クイナ二度鳴く…大江健三郎と伊丹十三の『静かな生活』」

野崎歓「大江健三郎と『美しい少年』…コクトーのしるしのもとに」

村上靖彦「多元的な宇宙のはざままで…大江健三郎1963 & 1983」

〈新しい歌〉

佐藤泉「引用」と「回心」について…『雨の木』
レイン・ツリーを聴く

女たち』

藤平育子「星と星が繋がる喜び…『ヒロシマ・ノート』から『人生の親戚』へ…フォークナーとオコナーを手がかりに」

渡邊英理「大江健三郎と中上健次」

奥彩子「『オートフィクション』におけるジェンダー…ウ

グレシッチ『きつね』を通して読む大江の後期作品」

〈ユマニズムの小説家〉

北山敏秀「われらの性の世界」と一九五九年のリアリティが絡み合うところ…『われらの時代』に関するいくつかの

批評」

峰尾俊彦「性的人間のつなぎ間違い…一九六〇年代前半の

大江小説」

高橋由貴「裸形の文学…冷戦下の大江小説と動物的存在」

坂口周「『人間』を定義する文学…ポストヒューマン時代

における「あいまい」な人間性」
ヒューマニズム

〈記憶Ⅱオマージュ〉

櫻木みわ「これからも」

森山恵「〈雨の木〉を聴く女」、わたし」
レイン・ツリー

森井良「大江の〈A〉、オントのにおい」

〈師匠、あるいは同伴者たち〉
パトロン

三原芳秋「大江が扉を開いていた…エドワード・W・サイードのアーカイヴから」

小林成彬「遅れてきた大江健三郎…サルトルにみちびかれて」
半田侑子「大江健三郎とそのミクロコスム…加藤周一を手がかりに」

山田潤治「ラインの監視／自殺への契約書…大江健三郎の他者・江藤淳の他者」

原塁「読む、見る、書く…武満徹を聴く大江健三郎」
〈書くことに向かつて〉

阿部賢一「大江健三郎の自筆原稿が問いかけるもの」

山本浩貴（いぬのせなか座）「絶望とモデル…私的感慨と『文学ノート』におけるアトリエ」

西岡宇行「『燃え上がる緑の木』における創作の再定位…伊東静雄「鶯（一老人の詩）」を出発点に」

佐藤光「大江健三郎のウィリアム・ブレイク…まなびほぐしの過程を探る」

横道誠「脳の多様性から見た大江健三郎作品…当事者批評の実践」

〈想像力という問い〉

山本昭宏「『ピンチランナー調書』と七〇年代の想像力」

石橋正孝「ディストピアの外部…大江健三郎〈治療塔〉二部作をめぐる」

今井亮一「大江健三郎と『世界文学』…そのいくつかの概念」
青木耕平「一九八六年のビーンボール…大江健三郎のアメリカ講演録“Japan's Dual Identity: A Writer's Dilemma”を読む」

〈小伝〉

山本昭宏「小説を生きた作家…変革主体の消長と書く主体の揺れ動き」

『ふらんす』二〇二三年七月号（特集…大江健三郎とフランス）

宮下志朗「大江健三郎から渡辺一夫、ラブレールへ…個人的な回想」

フィリップ・フォレスト「追悼 大江健三郎」

尾崎真理子、コリーヌ・カンタン「対談 大江健三郎が残した希望」

アントナン・ベシユレール「大江健三郎、最後の〈戦後作家〉」

『週刊金曜日』二〇二三年九月一五日号（特集…大江健三郎を語る）

山本昭宏「憲法と戦後民主主義と大江文学」

吉村千彰「書き方と生き方が一体となったヒューマニズム」

山崎行太郎「《文学すること》で《死刑判決》を受けざるをえない作家」

鎌田慧「サルトルの「アンガージュマン」を最後まで意識していた」

『群系』五〇号（二〇二三年九月）（特集…大江健三郎と
いう〈巨大な謎〉^{エニグマ}）

勝原晴希「なにかじつに堅固で巨大なものが…大江健三郎『個人的な体験』を読む」

星野光徳「わが追憶的〈大江健三郎〉（1）ガリ版刷りの「政治少年死す」

土倉ヒロ子「大江健三郎 頭のいい「雨の木（レイン・ツリー）」…「雨の木」は救いの神か」

大堀敏靖「大江健三郎 その思想と文学のあいまい…『沖縄ノート』と『飼育』を読む」

間島康子「大江健三郎…森の奥の谷間の燃えるトゲ」

市原礼子「大江健三郎…「人生の親戚」と信仰について」
小林弘子「「中野重治忌」と大江健三郎の想い出」

近藤加津「初期大江文学雑感…「死者の驕り」を中心に」
草原克芳「巨鯨とヨナと〈黙示録的現在〉 大江健三郎の文学的遺産」

野寄勉「『戦争×文学』を読む（第19回）大江健三郎『アトミック・エイジの守護神』…しかし無意味ですよ、白血病には」

『図書』二〇二三年一一月号（追悼 大江健三郎さん）

筒井康隆「大江さんからの手紙」

山内久明「光り輝く緑の大樹…個人的な追悼 断片」

新川明「出会い」

田村久美子「水曜日のレッスン」

山登義明「ラスト・ピースまで」

カンタン・コリーヌ「大江さんの笑顔」

尾崎真理子「大江健三郎 エッセイ・評論集全四十二冊」

○論文

二〇一三年

村上克尚「ファシズムに抵抗する語り…大江健三郎「セヴンティーン」における動物的他者の声」『昭和文学研究』第六七集

服部訓和「ハックルベリイ・フィンのアメリカ…『沖縄ノート』とユダヤ系アメリカ人の身体」『日本近代文学』第八九集

鈴木恵美「大江健三郎『水死』論…漱石『こころ』の受容をめぐる」『社会文学』第三七号

米倉巖「大江健三郎論…初期作品を視点として」『藝文攷』一八号（日本大学大学院芸術学研究科文芸学専攻）

時渝軒「書き直しによる脱イデオロギーと、イデオロギーの再構築…大江健三郎『水死』論」『研究論集』一三号（北海道大学大学院文学研究科）

徐晗「二〇〇〇年以降の大江健三郎文学と莫言文学の対比研究…グロテスク・リアリズムを視座として」『Comparatio』一七号（九州大学大学院比較社会文化学府比較文化研究会）

二〇一四年

安藤礼二「『世界』と『私』のカタストロフィーに抗って…大江健三郎『晩年様式集』（イン・レイト・スタイル）論」『新潮』一月号

南徴貞「近未来の「危険の感覚」…大江健三郎『治療塔』論」『言語・地域文化研究』二〇号（東京外国語大学大学院総合国際学研究科）

山本純子「大江健三郎「万延元年のフットボール」論…比喩表現を視座として」『文教大学国文』四三号（文教大学国文学会）

池沢充弘「反私小説的な「私」をめぐる…田山花袋『蒲団』と大江健三郎『水死』」『早稲田現代文芸研究』四号（早稲田文芸・ジャーナリズム学会）

風呂本武敏「大江健三郎とイエイツ…『燃えあがる緑の木』三部作を中心に」『エール…アイルランド研究』Eire: Irish studies』二二三号（日本アイルランド協会）

服部訓和「幽霊たちの記憶…大江健三郎『空の怪物アグイ』とテクノロジー」『語文』一四八号（日本大学国文学会）
陶友公「大江健三郎作『二百年の子供』とファンタジー小説」『愛知工業大学研究報告』四九号（愛知工業大学）

乗原文和「一九八〇年代の大江健三郎による自身の小説の再利用・再生の方法」『昭和文学研究』第六八集

石原慎太郎「大江健三郎との激論」『文藝春秋』三月号

高橋由貴「大江健三郎のフランス・ユマニスム受容」『痴愚神礼讃』と小説的豊かさ』『言文』六一号（福島大学国語教育文化学会）

團野光晴「大江健三郎とテクノロジー」『科学・技術・文学』

『金沢大学国語国文』三九号（金沢大学国語国文学会）

服部訓和「大江健三郎におけるウィリアム・ブレイク受容・フライによるブレイク」『総合文化研究』二〇巻一号（日本大学商学部）

石井明美「魂に接するマナー」私の中の大江健三郎（その2）『葦牙』四〇号（『葦牙』の会）

北山敏秀「大江健三郎の「自殺」する肉体」『日本文学』六三巻九号

團野光晴「消費社会と人間」大江健三郎『万延元年のフットボール』論『日本近代文学』第九〇集

小島四郎「大江健三郎『沖縄ノート』を考える」『Ripresa.』

II』七号（Ripresa編集委員会）

イシヤウツド・クリストファー「暴力に逆らって書く文学

大江健三郎論の『奇妙な仕事』に逆行する意味」『国際経営論集』（神奈川大学経営学部）

岡村知子「太宰治「津軽通信」論」『巫（かななぎ）の倫理について』『文学・語学』二二一号（全国大学国語国文学会）

藤田明史「平和学から見た大江文学」『トランセンド研究』一二巻二号（トランセンド研究編集委員会）

二〇一五年

北山敏秀「大江健三郎『沖縄ノート』における歴史意識の交差」『日本近代文学』第九三集

劉蘇曼「『監禁状態』の構造の解明」大江健三郎の初期小説作品を中心に」『二十世紀研究』一六号（二十世紀研究編集委員会）

岡和田晃「真空の開拓者」大江健三郎の「後期の仕事（レイト・ワーク）」（1）『未来』五八一号（未来社）

南徹貞「現代の「悲劇の表現者」」大江健三郎『人生の親戚』論『言語・地域文化研究』二二号（東京外国語大学大学院総合国際学研究所）

高橋正雄「Sweet Spot 文学に見るリハビリテーション」

大江健三郎の『走れ、走りつづけよ』：精神障害の祖父」

『総合リハビリテーション』四三卷二号(株式会社医学書院)

杉山若菜「〈prayer〉〈幻^{イマジネーション}〉〈imagination〉: 大江健三郎

『洪水はわが魂に及び』から」『日本文学研究』五四号(大東文化大学日本文学会)

矢島正「大江健三郎『二百年の子ども』の教材性」『群馬大学教育学部紀要 人文・社会科学編』六四号(群馬大学教育学部)

江口真規「らしやめんの変容と戦後占領期文学における羊の表象: 高見順『敗戦日記』・大江健三郎「人間の羊」を中心に」『文学研究論集』三三三号(筑波大学比較・理論文学会)

時渝軒「終わらない書き直しの方法: 大江健三郎『晩年様式集(イン・レイト・スタイル)』論」『東アジア研究』一三号(山口大学大学院東アジア研究科)

渡邊静「大江健三郎「鳩」論」『フェリス女学院大学日文学大学院紀要』二二二号(フェリス女学院大学大学院人文科学研究科日本文学専攻)

下村朋世「大江健三郎『取り換え子 チェンジリング』論: 「生み直し」への軌跡」『中央大学国文』五八号(中央大学学國文學會)

青木正美「古本屋控え帳(346) 大江健三郎「セブンティーン」事件」『日本古書通信』四月号(日本古書通信社)

王中忱「重ね合わせた旅 織り交ぜたテキスト: 大江健三郎「無垢の歌 経験の歌」を読む」『アジア遊学』一八二号(勉誠社)

池澤夏樹「詩のなぐさめ(39) 大江健三郎からW・H・オーデンへ」『図書』六月号

山根猷「戦後の精神」の始まりの現象: 『大江健三郎自選短篇』にみる小説の方法」『葦牙』四一号(「葦牙」の会)

石井明美「戦後七〇年の変質: 実は「侮辱」の「戦間期」だった? (辺見庸と大江健三郎から)」『葦牙』四一号(「葦牙」の会)

高橋正雄「Sweet Spot 文学に見るリハビリテーション」大江健三郎の『作家自身にとって文学とはなにか?』: 創作の発症予防作用」『総合リハビリテーション』四三卷八号(医学書院)

藤井省三「大江健三郎と『鲁迅と日本文学』『UP』一一月号(東京大学出版会)」

二〇一六年

奥彩子「テープレコーダーと死者と歴史: ダヴィド・アル

- バハリ『餌』と大江健三郎『取り替え子』^{チェンジリング}』共立女子大学文芸学部紀要』六二号（共立女子大学文芸学部）
- 村上克尚「傍らに寄り添う動物…大江健三郎『万延元年のフットボール』論」『日本近代文学』第九四集
- 波平八郎「レジュエンス文学論…大江健三郎の文学観に基づく」『沖縄県立芸術大学紀要』二四号（沖縄県立芸術大学）
- 岡和田晃「真空の開拓者…大江健三郎の「後期の仕事」（leit・ワーク）」（2）『未来』五八二号（未来社）
- 岡和田晃「真空の開拓者…大江健三郎の「後期の仕事」（leit・ワーク）」（3）『未来』五八三号（未来社）
- 岡和田晃「真空の開拓者…大江健三郎の「後期の仕事」（leit・ワーク）」（4・最終回）『未来』五八四号（未来社）
- 時渝軒「隠されたホモセクシュアリティ…大江健三郎『取り替え子』^{チェンジリング}論」『研究論集』一五号（北海道大学文学研究科）
- 杉山若菜『同時代ゲーム』考：「visionary」「妹」「隠喩」『日本文学研究』五五号（大東文化大学日本文学会）
- 渡邊静「大江健三郎初期作品研究…「喝采」論」『フェリス女学院大学日文学院紀要』二三号（フェリス女学院大学大学院人文科学研究科日本文学専攻）
- 池沢充弘「unlearn, unteach する「女たち」の語り…大江健三郎『水死』における憑坐と教育」『言語態』一五号（言語態研究会）
- 豊彩夏「大江健三郎作品における男性同性愛の表象…分析に向けて」『早稲田現代文芸研究』六号（早稲田文芸・ジャーナリズム学会）
- 南徽貞「^{ニューエイジ}「新時代」の死と詩…大江健三郎『新しい人よ眼ざめよ』論」『東京外国語大学日本研究教育年報』二〇号（東京外国語大学日本専攻）
- 今井亮一「サハリンでの大江健三郎シンポジウム・参加報告…あるいは、ユジノサハリンスク紀行」『れにくさ…現代文芸論研究室論集』六号（現代文芸論研究室）
- 今井亮一「大江健三郎自選短篇」における改稿をめぐって『れにくさ…現代文芸論研究室論集』六号（現代文芸論研究室）
- 時渝軒「批評と小説の間…大江健三郎『憂い顔の童子』論」『国語国文研究』一四九号（北海道大学国語国文学）
- 藤谷恵一郎「一篇の小説◆大江健三郎『新しい人よ眼ざめよ』」『PO…総合詩誌』一六三号（二〇一六年冬号）（竹林館）

小川榮太郎「日本虚人列伝(第2回) 大江健三郎…装はれた難解さ 隠された乏しさ」『正論』一一月号(産経新聞社)
黒古一夫「大江健三郎文学の「世界性」」『世界文学』一二四号(世界文学会)

宮澤隆義「新たな「方法序説」へ…大江健三郎をめぐる」『群像』一二月号

周硯舒「大江健三郎の「私」語りの特徴と意義…古義人六部作を中心として」『東アジア文化研究』二号(東アジア文化研究会)

二〇一七年

高橋由貴「大江健三郎「死者の奢り」におけるサルトル受容…粘つく死者の修辞」『昭和文学研究』第七四集

加藤典洋「敗者の想像力(最終回) 大江健三郎の晩年」『Kotoba』二六号(集英社)

杉山若菜「『相互反転』した『救世主は従って光をもたらす人なのである』…『ピンチランナー調書』考察」『日本文学研究』五六号(大東文化大学日本文学会)

北村隆志「大江健三郎『新しい人よ眼ざめよ』と戦後憲法」『日本文学』四月号

加藤典洋「『水死』のほうへ…大江健三郎と沖縄」『すばる』

五月号(集英社)

王麗華「核時代における現代人の信仰の問題について…大江健三郎の『燃えあがる緑の木』を中心に」『アジア遊学』二〇七号(勉誠社)

菊間晴子「後期の仕事(レイト・ワーク)」にあった「希望」…大江健三郎の小説作品における死者とのコミュニケーションに着目して」『日本近代文学』第九六集

坪井秀人「テロルの未決算…大江健三郎「政治少年死す」ほか」『昭和文学研究』第七五集

藤田雅子「大江健三郎『水死』をめぐる…折口信夫『山越しの阿弥陀像の画因』の一節を通して」『清心語文』一九号(ノートルダム清心女子大学日本語日本文学会)

高橋由貴「大江健三郎「アトミック・エイジの守護神」論」『日本文学』六六卷一一号

北山敏秀「『ヒロシマ・ノート』における「原水爆被災白書」の思想…「被爆者」について語ることと、その「批判」に対する意識のあいだ」『日本文学』六六卷一一号

小林由紀「大江健三郎『晩年様式集(イン・レイト・スタイル)』におけるアサの言説の意義」『比較文化研究』一二九号(日本比較文化学会)

二〇一八年

松岡信哉「エコクリティシズムから見たシュミラクルとリアル：Don Delilloと大江健三郎の冷戦期および冷戦後核表象」『龍谷大學論集』四九一号（龍谷学会）
坂口周「消滅の寓意と〈想像力〉の問題…大江健三郎から村上春樹へ」『文学＋』第1号（凡庸の会）
梶尾文武「大江健三郎ノート第1回・第1章 一九五四年の転向」『文学＋』第1号（凡庸の会）
松岡信哉「SF的想像力が描く核と環境：Don Delilloと大江健三郎のapocalyptic fiction」『エコクリティシズムレビュー』No.11（エコクリティシズム研究学会）
木口慎平「大江健三郎『空の怪物アグイー』論…〈ぼく〉の《語り》を中心に」『愛知大学国文学』五七号（愛知大学国文学会）
高橋正雄「精神医学的にみた近代日本文学（第27報）大江健三郎・加賀乙彦・古井由吉（2）」『聖マリアンナ医学研究誌』一八卷九三号（聖マリアンナ会聖マリアンナ医学研究所）
下山嬢子「大江健三郎『燃えあがる緑の木』の〈教会〉…「信仰を持たないもの」の祈り」『日本文学研究』五七号（大

東文化大学日本文学会）

中島紀子「助動詞「ようだ」の使用効果…大江健三郎『個人的な体験』を一例として」『表現学』四号（大正大学表現学部表現文化学科）
山田夏樹「大江健三郎「人間の羊」における語り手「僕」の問題性…ファンタジーから現実へ（上）」『学苑』九三五号（昭和女子大学近代文化研究所）
松本拓真「「ゾーン」として象られた知的障害者…大江健三郎「案内人」論」『立教大学大学院日本文学論叢』一八号（立教大学大学院文学研究科日本文学専攻）
筒井康隆・蓮實重彦「同時代の大江健三郎」『群像』八月号
尾崎真理子「大江健三郎全小説」刊行記念 圧倒的な体験が始まる」『本』八月号（講談社）
高橋源一郎・平野啓一郎・尾崎真理子「大江文学の面白さをとことん語りつくす！」『群像』九月号
横田喬「あの人この言葉（24）大江健三郎さん（一九三五〜）ヒロシマは人類全体の最も鋭く露出した傷」『大法輪』九月号（大法輪閣）
佐藤優「ベストセラーで読む日本の近現代史（第61回）非転向者と傍観者…六〇年安保の総括『万延元年のフットボ

ール」大江健三郎』『文藝春秋』一〇月号

陳宝剣「大江健三郎文学作品における「生」に対する思考
…文化の視点から」『日本学論壇』二号（新日本文化研究会）

二〇一九年

服部訓和「研究展望『大江健三郎全小説』と大江研究」

『昭和文学研究』第七九集

北山敏秀「『声のない』呼びかけを聴く…大江健三郎『個人的な体験』における規範への意識と、規範を差異化する身体」『社会文学』第四九号

陸川博「出版されなかったヘンリー・ミラーの画集…大江健三郎と久保貞次郎の邂逅」『デルタ…ヘンリー・ミラー、アナイス・ニン、ロレンス・ダレル研究論集』一一号（日本ヘンリー・ミラー協会）

松本拓真「『静かな生活』におけるナラティブの手法…大江健三郎『静かな生活』論」『立教大学日本文学』一二一号（立教大学日本文学会）

王新新「初期大江健三郎試論…戦後再啓蒙・自己啓蒙・文化批評の様相」『東アジア文化研究』四号（國學院大學大学院文学研究科）

春日勉「法学者の本棚 大江健三郎 あいまいな日本の私

…普遍的な表現をめざして」『法学セミナー』六四卷二号（日本評論社）

杉山若菜「大江健三郎における想像力の軌跡…〈祈り〉に向けて」『日本文学研究』五八号（大東文化大学日本文学会）

藤井聡・柴山桂太・浜崎洋介・川端祐一郎「対米従属文学論（第5回）戦後的ニヒリズムへの「監禁」…大江健三郎

「後退的青年研究所」「セブンティーン」について」『表現者 クライテリオン』三月号（啓文社書房）

稲村聡「戦争の諸側面と「戦争文学」…開高健、大江健三郎の作品を中心に」『社会学論集』三三三号（早稲田大学大学院社会科学部研究科）

沼野充義「大江健三郎と世界文学…周縁から普遍へ」『アジア文化』三六号（アジア文化編集委員会）

尾崎真理子「ノーベル文学賞は大江健三郎に如何にしてもたらされたか」『アジア文化』三六号（アジア文化編集委員会）

松本拓真「兄の「性」／妹の「性」をめぐる物語…大江健三郎『静かな生活』論」『立教大学大学院日本文学論叢』一九号（立教大学大学院文学研究科日本文学専攻）

田鎖数馬「大江健三郎『万延元年のフットボール論』…「再

生への始動」と過去の継承」『国語国文』八八巻一〇号（京都大学文学部国語学国文学研究室）

新船海三郎「大江健三郎と天皇（制）、また「戦後民主主義」（上）「セヴンティーン」から「晩年様式集（イン・レイト・スタイル）」まで」『民主文学』一二月号（日本民主主義文学会）

二〇一〇年

新船海三郎「大江健三郎と天皇（制）、また「戦後民主主義」（下）「セヴンティーン」から「晩年様式集（イン・レイト・スタイル）」まで」『民主文学』一月号（日本民主主義文学会）

梶木「野生との連帯と裏切り…大江健三郎の「野生」への嗅覚」『トーキング・ヘッズ叢書（特集…野生のミラクル）』81号（アトリエサード）

李承俊「韓国語教育における翻訳の活用の試み…大江健三郎『万延元年のフットボール』の韓国語翻訳を事例に」『愛知学院大学語研紀要』四五巻一号（愛知学院大学語学研究所）

野崎 敏「寛容の精神…渡辺一夫と大江健三郎を読む」『Koroba』二八号（集英社）

工藤庸子「文学における性差の力学…丸山眞男と大江健三郎」『学士会会報』No. 940（一般社団法人学士会）

松本拓真「『希望』と『忍耐』の「辞書」…大江健三郎『個人的な体験』論」『立教大学日本文学』一二三三号（立教大学日本文学会）

工藤庸子「大江健三郎と『晩年^{レイト・ワーク}の仕事』（第1回）^{チェンジリング}取り替え子…人生の窮境と小説を書くこと」『群像』二月号

西岡宇行「大江健三郎『晩年様式集』に描出される「私」と「私ら」との関係…アサの妄想語りの分析を中心に」『言語情報科学』一八号（東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻）

趙春英・金珽実・郭俊海「作家同士の交遊…大江健三郎と中国近現代の作家たちをめぐる」『九州大学留学生センター紀要』二八号（九州大学留学生センター）

尾崎真理子「大江健三郎全小説」を読んで、見えてきたこと」『早稲田現代文芸研究』一〇号（早稲田文芸・ジャーナリズム学会）

結秀実「小説家・大江健三郎…その天皇制と戦後民主主義」『群像』三月号

沼野充義「紀行 チェーホフとサハリンの美しいギリヤーク」

ク人・村上春樹、大江健三郎からサンギまで』『すばる』
三月号（集英社）

高橋正雄「Sweet Spot 文学に見るリハビリテーション
大江健三郎の『治療塔』：首相になった元リハ医」『総合
リハビリテーション』四八巻三号（医学書院）

沼野充義「チェーホフとサハリンの美しいニヴフ人・村上
春樹、大江健三郎からサンギまで」『れにくさ』現代文芸
論研究室論集』一〇巻一号（東京大学大学院人文社会系研
究科・文学部 現代文芸論研究室）

井上隆史「三島由紀夫と大江健三郎：世界文学の観点から」
『れにくさ』現代文芸論研究室論集』一〇巻一号（東京大
学大学院人文社会系研究科・文学部 現代文芸論研究室）
四方朱子「他人の足」：当事者であるということ『日本
研究』六〇号（国際日本文化研究センター）

尾崎真理子「ギー兄さんとは誰か」大江健三郎と柳田国男
（1）『群像』四月号

工藤庸子「大江健三郎と『晩年^{レイト・ワーク}の仕事』（第2回）憂い顔
の童子・セルバンテス、ジョイス、古義人」『群像』五月号
尾崎真理子「ギー兄さんとは誰か」大江健三郎と柳田国男
（2）『群像』五月号

尾崎真理子「ギー兄さんとは誰か」大江健三郎と柳田国男
（完結）『群像』六月号

栗原文和「大江健三郎『燃えあがる緑の木』について：1
989～90年の天皇代替わり儀式との関連から」『渾沌』
一七号（近畿大学大学院総合文化研究科）

田中和生「現代文学を読む（47）大学のゼミで大江健三郎
を読む」『Wii』九月号（ワック株式会社）

工藤庸子「大江健三郎と『晩年^{レイト・ワーク}の仕事』（第3回）とりあ
えずのしめくりとしての『さようなら、私の本よ！』『群
像』九月号

宮澤隆義「時代の『総括』の後に」大江健三郎^{レヴォリュショナリ・ウーマン}「革命女性」
論『昭和文学研究』第八一集

新屋敷恵美子「法学者の本棚 自分を創るもの」：僕が本当
に若かった頃 大江健三郎著『法学セミナー』六五巻一
〇号（日本評論社）

長山靖生「SFのある文学誌（第72回）大江健三郎的想像
力（1）核をめぐる過剰もしくは貧困」『SFマガジン』
一〇月号（早川書房）

工藤庸子・尾崎真理子「『大江健三郎全小説全解説』刊行
記念対談 女たちの大江健三郎」『群像』一一月号

長山靖生「SFのある文学誌(第73回) 大江健三郎的想像力(2) 宇宙意志から神話的リアリズムへ」『SFマガジン』一二月号(早川書房)

工藤庸子「大江健三郎と『晩年^{レイト・ワーク}の仕事』(第4回)「戦後民主主義」と『水死』『群像』一二月号

松本拓真「『われわれ』の空に浮游するアグイー…大江健三郎「空の怪物アグイー」論」『立教大学日本文学』一四号(立教大学日本文学会)

二〇二一年

西岡宇行「大江健三郎『水死』における語りの方法…憑坐(よりまし)の語りに着目して」『社会文学』第五三三

趙春英「大江健三郎と劉再復…文学の主体性構築を巡って」

『日中文化学報』二号(『日中文化学報』事務局)

菊間晴子「『テン窪大櫓』の表象に見る「魂」の救済可能性…大江健三郎『懐かしい年への手紙』、『燃えあがる緑の木』の比較分析を通して」『超域文化科学紀要』二五号(東京大学大学院総合文化研究科超域文化科学専攻)

北山敏秀「『世代』的な表象の手前で…大江健三郎「飼育」における『戦争』の意味」『研究紀要』五一号(鹿児島純心女子短期大学)

西岡宇行「大江健三郎『同時代ゲーム』にみる書き直し過程の主題化…大きな物語の終焉に向かって」『言語情報科学』一九号(東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻)

高橋正雄「Sweet Spot 文学に見るリハビリテーション

大江健三郎の『芽むしり仔撃ち』…感染症文学としての側面」『総合リハビリテーション』四九卷二号(医学書院)
奥泉光・いとうせいこう「大江健三郎『芽むしり仔撃ち』を読む」『すばる』三月号(集英社)

大杉重男「『本当の事』を言った「獣」…大江健三郎『万延元年のフットボール』論」『人文学報』五一七号(東京都立大学人文科学研究科人文学報編集委員会)

工藤庸子「大江健三郎と『晩年^{レイト・ワーク}の仕事』(第5回)晩年^{イン・レイト・スタイル}様式集…十年後に読む「カタストロフィー小説」」『群像』三月号
西欣也「テロ時代のフィグーラ 後期大江文学における方法と内実」『心の危機と臨床の知』二二卷(甲南大学人間科学研究科)

西岡宇行「大江健三郎『懐かしい年への手紙』に書き込まれる「義」のありよう…戦後文学者の意志の継承というモチーフ」『JunCture: 超域的日本文化研究』一二号(名古屋

屋大学大学院人文科学研究科附属超域文化社会センター)

尾崎真理子「消すことによって書く…大江健三郎の「自筆原稿」が秘める価値」『群像』四月号

團野光晴「〈戦後日本〉の死と再生…大江健三郎『懐かしい年への手紙』論」『金沢大学国語国文』四六号(金沢大学国語国文学会)

工藤庸子「大江健三郎と「晩年^{レイト・フーズ}の仕事」(最終回)「戦後の精神」について」『群像』六月号

宮澤隆義「大江健三郎の quarantine」『群像』八月号

蓮實重彦「窮することで見えてくるもの…大江健三郎『水死』論」『群像』一〇月号

田鎖数馬「大江健三郎「燃えあがる緑の木」成立の背景…安部公房の「警告」」『高知大國文』五二号(高知大学国語国文学会)

佐高信「佐高信の(新)人物診断 大江健三郎と新しいヒューマニズム」『サンデー毎日』十二月一九日号(毎日新聞出版)

二〇二二年

平田賢司朗「『聖女』の表象…大江健三郎『人生の親戚』論」『日本大学大学院国文学専攻論集』一八卷(日本大学

大学院文学研究科国文学専攻)

加藤雄二「「始まりの始まり」をめぐる一つの遊戯…現代日本文学から、川端康成、小林秀雄、大江健三郎へ」『総合文化研究』二五号(東京外国語大学総合文化研究所)

佐久本佳奈「大江健三郎「人間の羊」論…〈法〉の手前の監禁空間」『昭和文学研究』第八四集

楠田剛士「『ヒロシマ・ノート』再読のために」『原爆文学研究』二〇号(原爆文学研究会)

山本昭宏「一九六〇年代初頭の大江健三郎と広島の関係をめぐる一考察…『中国新聞』と『世界』に注目して」『原爆文学研究』二〇号(原爆文学研究会)

前田健太・前田圭介「文学は教育に不要か?…大江健三郎「他人の足」を用いた教科横断型授業の実践」『早稲田大学高等学院研究年誌』六六号(早稲田大学高等学院)

田中聖仁「大江健三郎の小説における読書行為…テキストを解釈する登場人物」『表現文化』一一号(大阪市立大学大学院 文学研究科 文化構想学専攻 表現文化学教室)

林欣彤「大江健三郎『河馬に噛まれる』にみる多義的な人間と〈共生〉の道程…ポストヒューマンを図るために」『九大日文』三九号(九州大学日本語文学会)

村松真理子「ダンテ『神曲』の森と植物をめぐる…大江健三郎とマリア・コルティの対話に導かれて」『Odysseus : 東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻紀要』二六号（東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻）
村上克尚「人間を問い直す…戦後文学と震災後文学における動物の主題をつないで」『文学・語学』二三五号（全国大学国語国文学会）

陳汝倩「内的対話による死者のメッセージ…大江健三郎『死者の奢り』論」『立命館文学』六七九号（立命館大学人文学会）

村上克尚「研究展望 「大江健三郎文庫」（仮称）の未来に向けて」『昭和文学研究』第八五集

工藤庸子「文学ノート・大江健三郎（1）敗戦と小説について…大岡昇平×大江健三郎」『群像』九月号

工藤庸子「文学ノート・大江健三郎（1）敗戦と小説について…大岡昇平×大江健三郎（第2回）」『群像』一〇月号

河村義人「戦前」の今、「反戦の書」を読む（43）大江健三郎往復書簡 暴力に逆らって書く『部落解放』一〇月号（解放出版社）

松本拓真「鳴り響く終末の音を聴くこと…大江健三郎『洪

水はわが魂に及び』論」『日本近代文学』第一〇七集

工藤庸子「文学ノート・大江健三郎（1）敗戦と小説について…大岡昇平×大江健三郎（第3回）」『群像』一月号
工藤庸子「文学ノート・大江健三郎（1）敗戦と小説について…大岡昇平×大江健三郎（第4回）」『群像』一二月号
鶴見太郎・尾崎真理子「大江健三郎の「義」刊行記念対談 大江健三郎と柳田国男の『夢のゆくえ』」『群像』一二月号

出原隆俊「大江健三郎『飼育』を読む」『語文』一一九号（大阪大学国語国文学会）

二〇一三年

山田夏樹「大江健三郎「人間の羊」における語り手「僕」の問題性…ファンタジーから現実へ（下）」『学苑』九七一号（昭和女子大学近代文化研究所）

宮澤隆義「へ人民」から遠く離れて…大江健三郎「セヴンティーン」『政治少年死す』論」『G・W・G』七号（G・W・G編集委員会）

ヒカリクラブ「女たちの「+α」…大江健三郎『晩年様式集（イン・レイト・スタイル）』の差異／戦後民主主義／固有名」『G・W・G』七号（G・W・G編集委員会）

西岡宇行「大江健三郎『宙返り』における反復…象徴天皇制との関わりを視座として」『言語情報科学』二二号（東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻）

若尾裕「障害学からの音楽療法への問いかけ…大江健三郎の障害受容を事例として」『音楽教育学』五三卷一号（日本音楽教育学会）

瀬崎圭二「意味もなく、だらしく生きる若者たち…大江健三郎『われらの時代』の消費文化」『同志社国文学』九八号（同志社大学国文学会）

佐藤光「大江健三郎『新しい人よ眼ざめよ』において再創造されるウィリアム・ブレイク」『比較文学』六五号（日本比較文学会）

蓮實重彦「些事にこだわり（12）またぞろ大江健三郎の『にがいコオフィ』を論じることになるが、間違っても二番煎とはならぬので安心されたい」『ちくま』六二四号（筑摩書房）

樋口陽一「大江健三郎 ことばが照らす先 日本と日本人という自分 思索と行動と」『朝日新聞』三月二八日

司修「追悼 大江健三郎 悲しみもよく語る道化」『季刊文科』九二号（鳥影社）

富岡幸一郎「宗教と政治の狭間…二十一世紀の混沌の中で（第33回）大江健三郎の逝去」『宗教問題』四二号（白馬社）

小森陽一「大江健三郎さんを追悼する…日本国憲法の問題を生き抜いた文学者」『世界』五月号（岩波書店）

平野啓一郎・尾崎真理子「大江健三郎を偲ぶ」『文藝春秋』五月号

仲俣暁生「文芸時評 文学へのリハビリテーション（79）大江健三郎と『世界文学』」『出版人・広告人』五月号（出版人）

田中和生「現代文学を読む（79）大江健三郎の死と戦後文学の終わり」『Will』五月号（ワック株式会社）

篠原学「小説の技術とモラル…ミラン・クンデラの大江健三郎評」『言語文化共同研究プロジェクト／2022（二〇二三年発行）』（大阪大学大学院人文学研究科言語文化学専攻）

方蓓蓓「大江健三郎文学研究の状況と傾向…第五回大江健三郎文学シンポジウム略記」『アジア文化』四四号（アジア文化編集委員会）

箱乃なかみ「背伸びをすれば届く場所にある…追悼 大江

健三郎「『アンソロジスト』五号（田畑書店）

富岡幸一郎「虚構と言語…戦後日本文学のアルケオロジー（第26回）大江健三郎の文学と戦後民主主義」『表現者クライテリオン』五月号（啓文社書房）

流山児祥「旅する演出家（51）大江健三郎氏の死とOKI NAWA 2部作上演…ジャパンデミック2023」『テアトロ』五月号（カモミール社）

北村隆志「大江健三郎を読み直すために」『民主文学』六月号（日本民主主義文学会）

石川義正「生殖するアンティゴネー…大江健三郎『水死』における人工妊娠中絶と戦争」『群像』七月号

工藤庸子「文学ノート・大江健三郎（第5回）Ⅱ 沸騰的なような一九七〇年代…大江健三郎／蓮實重彦」『群像』七月号

岡和田晃「『侮辱』の感覚を手放さない対位法的な詩学…大江健三郎『晩年様式集』」『世界』七月号（岩波書店）

梶尾文武「純粹天皇の降臨と解体…一九七〇年前後における大江健三郎の中篇小説」『国語と国文学』八月号（明治書院）

山本昭宏「大江健三郎の『戦後民主主義』…東アジアから

破局の兆しを見つめた知識人」『世界』八月号（岩波書店）

岩川ありさ「書き言葉と声の往還、音楽が響くとき…大江健三郎『晩年様式集（イン・レイト・スタイル）』論」『日本文学』八月号

小野沢稔彦「大江健三郎の『スキャンダラスな世界』」『サンデー毎日』八月二〇日・二七日合併号（毎日新聞出版）

司修「追悼・大江健三郎『クマのプーさん』を読みながら」『図書』八月号

三上晋「大江健三郎『沖縄ノート』…脱日米核安保・平和建設の主体形成をめざして」『季報唯物論研究』八月号（季報『唯物論研究』刊行会）

新船海三郎「『平和』と『勝利』と『民主』という思想…大江健三郎の二つのノートから」『民主文学』九月号（日本民主主義文学会）

川満信一「大江健三郎ノート…ウチナー・マンガタミの自責」『世界』九月号（岩波書店）

工藤庸子「文学ノート・大江健三郎（第6回）Ⅱ 沸騰的なような一九七〇年代…大江健三郎／蓮實重彦」『群像』九月号

司修「小説・さようなら大江健三郎こんにちは」『季刊文

科』九三号（鳥影社）

渡辺祐真「読み読まれ、書き書かれる主体…大江健三郎に入門するために」『世界』一二月号（岩波書店）

工藤庸子「文学ノート・大江健三郎（第7回）Ⅱ 沸騰的なような一九七〇年代…大江健三郎／蓮實重彦」『群像』一二月号

中根隆行「大江健三郎と「戦後の精神」」『愛媛国文研究』七三号（愛媛国語国文学会）

二〇二四年

影浦弘司「敬して近づけ！ 友愛の大江文学」『文化愛媛』

八七号（愛媛県文化振興財団）

菅紀子「えひめ文学館（47）追悼 大江健三郎（1935

—2023）…愛媛から世界へ」『文化愛媛』八七号（愛媛県文化振興財団）

畑中佳恵「大人になるということ…大江健三郎「飼育」の

《僕》の加害性」『福岡大学日本語日本文学』三三号（福岡大学日本語日本文学会）

李敏知「大江健三郎『個人的な体験』論…「共同」の体験としての「個人的」な体験」『国語と国文学』二月号（筑摩書房）

秋満吉彦「ヘルメス神が導く名著選び…大江健三郎と『へるめす』の知」『図書』二月号

池澤夏樹「沖縄の大江健三郎」『図書』三月号

阿部賢一「最後の小説」に向けて…大江健三郎の自筆原稿」『図書』三月号

原広司「死者とともに生きよ…「ブーンという音」」『図書』三月号

平野啓一郎「記憶への声、記憶からの声…大江健三郎、瀬戸内寂聴、東アジア文学交流とAI時代の文学」『群像』

三月号

市川沙央・岩川ありさ・菊間晴子「鼎談 大江健三郎は何度でも新しい」『文学界』三月号

毛利孝雄「〈追悼〉大江健三郎さん 私の大江健三郎体験…ヒロシマ・沖縄・憲法」『科学的社会主義』三二一号（社会主義協会）

星野光徳「わが追憶的〈大江健三郎〉（2）〈屈辱〉と〈栄光〉の振幅」『群系』五一号（群系の会）

マルゲリータ・ロング（大崎晴美（訳））「^{マージンズ}周縁とニューロダイバーシティ…大江健三郎『水死』におけるケアの記号論」『超域的日本文化研究』（名古屋大学大学院人文学研

究科附属超域文化社会センター)

柴田翔「大江健三郎氏・旧懐・記憶・追憶・幻想〈3〉、

そして〈結び〉」『季刊文科』九五号(鳥影社)

松本拓真「再生される楽音を聴く…大江健三郎『新しい人
よ眼ざめよ』論」『昭和文学研究』第八八集

乗原文和「大江健三郎『ピンチランナー調書』論…三島由

紀夫「美しい星」のパロディとして読む」『文学・芸術・

文化…近畿大学文芸学部論集』三五巻二号(近畿大学文芸
学部)

杉山若菜「大江健三郎「懐かしい年への手紙」考察…」

頻出を契機にして」『水門』第三一号(勉誠社)

工藤庸子「大江健三郎(第八回)Ⅲ 神話・歴史・伝承…

『万延元年のフットボール』『同時代ゲーム』『群像』四
月号

菊間晴子「「見せ消ち」の生を歩む…書き直しの作家とし
ての大江健三郎」『ゲンロン』一六号(ゲンロン)

奥泉光・いとうせいこう「大江健三郎『水死』を読む」『す
ばる』五月号(集英社)

前田速夫「遅れて来た青年…開高健VS大江健三郎(対比列
伝 作家の仕事場 第三回)」『三田文学』二〇二四年春季

号(一五七号)(三田文学会)

*作成にあたり、高橋由貴「研究動向 大江健三郎」『昭
和文学研究』第八八集(昭和文学会、二〇二四年)を参照
した。

作成…杉本裕樹(すぎもと・ゆうき/法政大学大学院生)

関口雄士(せきぐち・たかし/法政大学兼任講師)